

長年、大切に保管されてきた本校の初代校旗を開封しました



本校は獨逸学協会学校として1883（明治16）年に創立し、今年で創立139年を迎えます。その本校の歩みと共にあり、長年、大切に保管されてきた本校の初代校旗をこのたび保存状態の確認のため、久方ぶりに開封しました。

この校旗は、1904（明治37）年に、獨逸学協会会員であった伊藤博文（初代内閣総理大臣）から頂いた費用で、当時日本で唯一の徽章の製作工場であった日本帝国徽章商会にて製作されたものです。東都球界の第一流との名声を得て、目覚ましい活躍をしていた野球部をはじめとする運動部の生徒たちの校旗製作の求める熱意に打たれた当時の大村仁太郎校長（第4代校長）が許可し、生徒たち主導で製作されたと『獨協学園史1881-2000』には記録されています。その後、本校の魂として大切に使用されてきましたが、傷みが進んだため、久しく箱に入れたままの状態でも保管されてきました。

こうして、長年の封を解かれた初代校旗。これからも長きに渡って後世に伝えていくため、より良い保管の在り方などの検討を始めています。このたび、校旗に込められた先人たちの息吹に触れるこのような機会を得て、本校に学び、携わる者として歴史を担う使命を改めて噛みしめる機会となりました。



シラー百年祭（獨逸学協会学校、明治38年5月9日）

*完成間もない初代校旗が講壇に掲げられています。